

美しい経験、またひとつ。 婦人画報

FUJINGAHO

1 January 2005 No.1218

婦人画報
アーカイブス
スペシャル

100年のサ化東



絵・文字 / 安西水丸

麻生圭子

機械で大量生産される

合理的で安価な「便利なモノ」より、

作り手である職人の心、

季節や自然を感じられる

丁寧で謙虚な手作り品を残したい。

今回セレクトした品物の中には、

昔ながらの懐かしい

生活道具がいくつか。

東京から京都の町家に

居を移したのを機会に、

家に合わせて暮らしの道具を

変えた私ですが、

実際に使い始めるまでは

「電化製品のほうが圧倒的に便利に違いない」

という先入観がありました。

さぞや大変だろうな、不便だろうなと

覚悟をして生活に取り入れたのですが、

実際は、なんだ、こんなに便利なのね！と。

ボタン一つで動く機械とは違って

「自分の加減」で使うことができるのも、

昔の道具が大好きな理由です。

蛇の目傘



見た目がいいは言うまでもなく、

雨の音が美しいのが、和傘のよさです。

傘に雨粒があたると

ばらばらと、陽気な音。

気分が沈みながら雨の日の外出も

楽しみに変化するのです。

自然現象を楽しむにしても

日本人の優雅な知恵に感心します。

使ったあとは陰干しの手入れが必要ですが

その姿も絵になります。

羽二重の蛇の目傘 / 日吉屋